

## ～県内参加者の感想文からの抜粋～

### ○ 講演「安全保障と国民生活」

・防衛費問題を歴史的、系統的に安全保障と国民生活の課題から学ぶことができ、とても有意義なものでした。ウクライナ戦争を待っていたかのように防衛費を増やし、原発を再稼働さらに新設を推し進めようとする政治に憤りを覚えます。今、世界がコロナパンデミックに襲われ、また温暖化という気候危機に直面し人類が存続できるかというなかで、軍拡をすすめるなんてありえない。

・宮崎先生のお話はいつも明快(明海)で、なぜ今、社会保障費を増やすことが社会として必要なのか納得がいきました。戦争中毒の国にしてはなりません。

### ○ 特別報告「コロナ禍で浮き彫りになった矛盾」

・待機期間が10日間から7日間になったが、コロナの特性がかわったからではなく、8日目から10日目も他人にうつす可能性が残っている。病院では自発的に8日目～10日目は「発熱外来へ」という対応している実態の報告があった。それらを含めて国民へ説明すべきだが、現場の判断に委ねられており、きめ細やかな施策をすべきだ。

・私自身今年7月まで医療機関で働いていたので、自分の問題として聞かせていただきました。感染対策を十分とっているにも関わらず、職員の感染によるクラスターの発生等、身に沁みるお話しでした。保健所の問題報告では、大阪でも保健所は24か所あったものが1か所に、24区は保健センターにされたことにより、このコロナ禍により大変な状況を作り出したことを元市長、元府知事も認めざるを得ない状況になっています。今も日夜奮闘されている医療職員、介護職、保健所の職員様に感謝です。

### ○ 「社会保障運動入門講座」

・「社会保障は公助ではない」は目からウロコがおちました。支配者の恩恵を受けているのではない。憲法上規定された国の「保障」する義務を負うということ。

・資本主義社会の矛盾、憲法にある社会保障、国際条約に照らし国際社会から批判をあげている等、あまり知らなかったことが聞けてよかったです。生活保護基準—「健康で文化的な最低限度の生活」を保障する保護費を削減は許されない問題である。大企業、富裕層への課税をちょっと引き上げるだけで解消できる、なぜ日本でこのような状況が作られるのか理解できない。社会保障運動の正念場という言葉が胸に響きました。

・憲法25条2項は“後退禁止”これを運動に使いましょう。“知っている”と思っていた範囲でしたが、切り口の新たな視点に気づかせていただき感謝。

### ○ シンポジウム「届けよう 現場・地域の声 広げよう運動を」

・公立病院の廃止、病床削減が全国各地で計画されている。コロナ禍にあって地域の医療機関が医療崩壊、職員の疲弊が広がるなか、公立病院の充実・発展が求められているなかで、なぜこのような事態がすすめられるのか？大阪市市民病院が2重行政の象徴として廃止、民間の病院誘致に失敗、結局、市と府の統合施設として病院の開設が計画されているような状況がある。65歳問題は、私自身職中はかなり頭を痛めた問題でした。いずれにしても、障害者施策、介護保険のどちらも充実させていかなければならないと思います。

・地元4者の話は、それぞれに良かったです。課題を自分ごととして引き寄せられる内容でした。

・各地での活動を知ることが出来ました。様々な立場の方が社会保障という観点から繋がることはとてもスゴイと感じました。

### ○ 全体を通じて その他

・国の政策、政治動向、社会保障の動向等、日々しっかり学ばないといけない。社会保障運動、地域での運動の大切さを感じました。微力ながら自分自身、社会保障運動をすすめていきたいと思いました。

・館山のNPO安房フォーラムのことを入れて下さり感謝です。地域の紹介にぴったりだったと思います。

・年金問題は社保協運動の柱の1つであると自覚しました。1日目に参加できず、残念でした。